

東奥日報

2024年(令和6年)2月22日(木曜日) (16)

ハ
工

2014年ソチ、18年平昌冬季五輪・アイスホッケー女子日本代表で、八戸市スポーツ大使の中村亜美さん(36)は同市出身。16日、八戸工業大学で「夢をかなえるまで」と題して講演した。中村さんは現役時代に所属チームの主将を2年間務めた経験から「いろいろなキャプテン像があつていい。仲間の話をよく聞くよう心がけ、話し合いながらチームをつくってほしい」とエールを送った。同大学友会は毎年2月、新年度に部活動やサークルの代表を務める学生を対象に「リーダーズ

仲間と話しチームづくりを



学生たちを前に講演する中村さん

アイスホッケー元日本代表・中村さん

研修会」を開いている。今回は初めて外部講師を招き開催した。

下長中3年時に「日の丸を背負って試合に出たい」との思いから、コクドレイイス(現SEI)で落選。「努力が形にな

BUプリンセスラビッツ)の門をたたいた中村さんは、五輪代表を夢見

てハードな練習に励み続けた。しかし、10年バンクーバー五輪の代表選考

八工大の部活動代表に講演

らず、練習に参加できないほど落ち込んだ」と挫折した経験を紹介した。

それでも所属チームの監督やメンバーに支えられ再度奮起。右足のけがも乗り越え、スマイルジャパンのFWとして五輪2大会で活躍した。引退後はバンダイナムコビジネスアーク(東京)に在籍。現在は出向先の系列企業で、競技経験をビジネスに生かすため奮闘している」とし「苦しさやつらさは何一つ無駄にはならない。周りへの感謝の気持ちを忘れずに今を楽しみ、進んでいこう」と夢や感謝の気持ちを持つことの大切さを呼びかけた。(棟方好華)

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」